

署名(オンライン&署名用紙)

推進ニュース

賛同署名総数は

8,772

9/14まで

\*オンライン署名

3,598

\*署名用紙署名

5,174

人  
人  
筆

https://www.change.org/Save-the-Ocean-fm

オンライン署名は右QRコードで直接 署名サイトへアクセスできます。  
★オンライン署名と併せ署名用紙での署名も行っています。HPまたは事務局へお問い合わせ願います!



スマホはこちらから

みやぎ生協・コープふくしまは  
東京電力福島第一原発事故におけるアルプス処理水  
(冷却水などの汚染水)の海洋放出に反対です。  
反対署名運動へのご協力をお願いします

●東京新聞 2021/8/29 掲載

震災で被災した宮城、福島両県の三つの生活協同組合が一昨年合併して運営されているみやぎ生協(仙台市)の副理事長で、処理水海洋放出の反対署名集めに取り組んでいる野中俊吉

東日本大震災から10年を迎えた直後の2021年4月、菅政権は東京電力福島第一原発(福島県大熊町、双葉町)の汚染水を浄化処理した後の水を、2年後をめどに海洋放出する方針を決めた。新たな風評被害を懸念する地元の反対を押し切った判断で、過去に政府や東電が漁業関係者と文書で交わした「約束」を裏切る行為でもあった。市民側では新型コロナウイルスの影響で往来に制約がある中、インターネットを活用した反対の署名集めの動きが起きている。

(市川千晴、中根政人)

原発処理水の海洋放出  
被災地生協が反対署名



敷地内に処理水のタンクが立ち並ぶ東京電力福島第一原発。3月、福島県で、本社へ「おおづる」から

さん(左)は「手に負えないから海に流してしまえ」というのは責任放棄だ。福島の問題に矮小化するのではなく、国民全体に訴える必要がある」と語る。

活動は、みやぎ生協など四団体が呼び掛け二、三年前から始まった。野中さんが講師となり、全国の生協でオンライン学習会を計五

回開催。三千筆近いオンライン署名が集まっている。同時に発行している用紙署名も千四百筆近い。野中さんは「年内に政府と東電に署名を提出したい」と意気込む。

福島第一原発の処理水に「関係者の理解なしには、いかなる処分も行わない」と書面を返答。処分方法を決める前に、地元漁業者の同意を丁寧にするかのような姿勢を示した。

野中さんは「反対の声を確認しておきながら、卑劣なやり方にあせんとした」と憤る。

関係者の理解なしには、いかなる処分も行わない」と書面を返答。処分方法を決める前に、地元漁業者の同意を丁寧にするかのような姿勢を示した。

一方、政府の小委員会は二〇年二月、海洋や大気への放出が現実的な選択肢であり、海洋放出の方が「確実に実施できる」とする報告書を公表した。

野中さんは「一般国民の感覚で取り組んでいない」と指摘。「反対の世論が高まれば、海洋放出しない方向で決着する可能性だってある」と力を込める。

◆全国各地で学習会が開催されています。これまでの取り組みや今後予定されている学習会などありましたら推進事務局まで情報提供いただければ幸いです

<情報・お問い合わせ先>

みやぎ生協・コープふくしま 福島県本体内  
「アルプス(ALPS)処理水海洋放出に反対する署名」推進事務局  
〒960-8566 福島県福島市森合字清水7番地 コープふくしま いずみ店2F  
Tel.024-557-1181 FAX557-5359 \* mail :sn.f10243sn@todock.coop(根本)



地元理解の「約束」裏切った

●処理水処分をめぐる経済産業省の有識者会合で委員を務めた、みやぎ生協副理事長 野中俊吉ふくしま県本部長が東京新聞の取材を受けました。

◆処理水の扱いをめぐる経緯やネットでの署名呼びかけについて取り上げていただきました。掲載当日から全国の皆様からのオンライン署名数が増え、反響の大きさを感えています。経緯を知ることで感じる数々の矛盾や理不尽さ。流されず諦めずに、学び、発信、行動し続けたいと思います。



/学習会で講師となり全国の皆様に呼びかけする野中本部長



マスコミ取材にも積極的に応えPRしています。相馬原産産カレイを手に。



<編集後記>erikoのつぶやき

「人はいつまでもふるさとを身につけている」ラ・フォンテーヌの言葉です。4年ごとに中学校の同窓会を開催している地元大好き編集者。本来であれば2022年開催でしたが、コロナウイルス情勢的にむずかしいだろうと判断し、早々と延期を決定しました。オンラインで色々なことが出来るようになったとは言え、やっぱり大切な人とはリアルで会いたい。みんなで大きな声で笑い合いたいですね。『ふるさと』の安心感、包容力は普遍的。『ふるさと』を奪われ汚されることを想像すると、今も苦しんでいる方々の心に少し近づけるような気がします。みんなの心にある「大切なふるさと」。しっかり守っていきたくいですね。